

◆ 公認心理師制度がよりよい形で推進され、医療現場や地域において一層貢献できる存在となっていくために

1 医療分野の公認心理師の専門性の確立

- ① 専門性の高い資質と能力の獲得
- ② 養成や卒後研修について

2 専門的心理支援の制度的裏付けの着実な実施

- ① 心理的アセスメントとフィードバック、心理教育の制度化
- ② 家族・関係者支援及び地域連携に関する制度の設置
- ③ 施設基準での公認心理師配置
- ④ その他 ア 心理検査の保険収載に向けての調査・検討
イ 小児領域における心理支援の拡充
ウ 外来における継続的な心理面接の評価

3 公認心理師の活動の充実

- ① 公認心理師の役割の明確化と関係者等への伝達
- ② 臨機応変な心理支援を提供するための常勤職配置
- ③ 各部門等に包括的に関与しやすい配置の検討
- ④ 国の推進する施策等との連動

検討委員（50音順・敬称略）

今村 扶美	（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院）
壁屋 康洋	（国立病院機構全国心理療法師協議会、榊原病院）
小林 清香	（日本総合病院精神医学会、埼玉医科大学）
鈴木 伸一	（公認心理師の会、早稲田大学）
田邊 英一	（日本精神科病院協会、慈雲堂病院）
西松 能子	（日本精神神経科診療所協会、あいクリニック神田）
山口 加代子	（リハビリテーション心理職会、中央大学）

事業協力者（50音順、敬称略）

相川 祐里	（済生会横浜市東部病院）
秋庭 篤代	（横浜労災病院）
伊藤 正哉	（国立精神・神経医療研究センター）
岩満 優美	（北里大学、日本サイコオンコロジー学会）
河西 有奈	（白峰クリニック）
桑田 直弥	（東京都健康長寿医療センター）
成田 有里	（埼玉県立小児医療センター）
野川 貴史	（鹿教湯温泉病院、リハビリテーション心理職会会長）
淵上 奈緒子	（平川病院）
古谷 誠二	（東京足立病院）

事業責任者 福田 由利 （一般社団法人日本公認心理師協会 理事、大石記念病院）

事業担当者（50音順） 稲田 尚子 （帝京大学）
奥村 茉莉子 （一般社団法人日本公認心理師協会 事務局長）
種市 康太郎 （一般社団法人日本公認心理師協会 常務理事、桜美林大学）
花村 温子 （一般社団法人日本公認心理師協会 理事、埼玉メディカルセンター心理療法室）
藤城 有美子 （駒沢女子大学）
水谷 孝之 （一般社団法人日本公認心理師協会 専務理事）
元永 拓郎 （一般社団法人日本公認心理師協会 常務理事、帝京大学）

本パンフレットは、厚生労働省令和3年度 障害者総合福祉推進事業「医療機関における公認心理師が行う心理支援の実態調査」を行った一般社団法人日本公認心理師協会が、心の支援に関係する多職種の方や行政関係者の皆様に、調査結果の概要をお伝えするために作成しました。調査報告書は、下記URLからダウンロード可能です。<https://www.jacpp.or.jp/document/>

心理専門職の国家資格

公認心理師

医療機関における心理支援

厚生労働省令和3年度障害者総合福祉推進事業
「医療機関における公認心理師が行う心理支援の実態調査」

一般社団法人 日本公認心理師協会



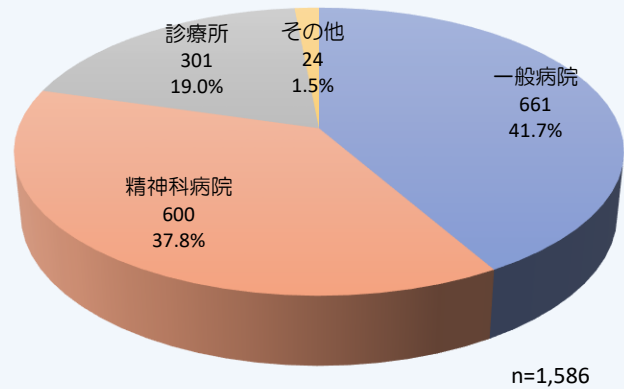
Japanese Association of Certified Public Psychologists

一般社団法人 日本公認心理師協会

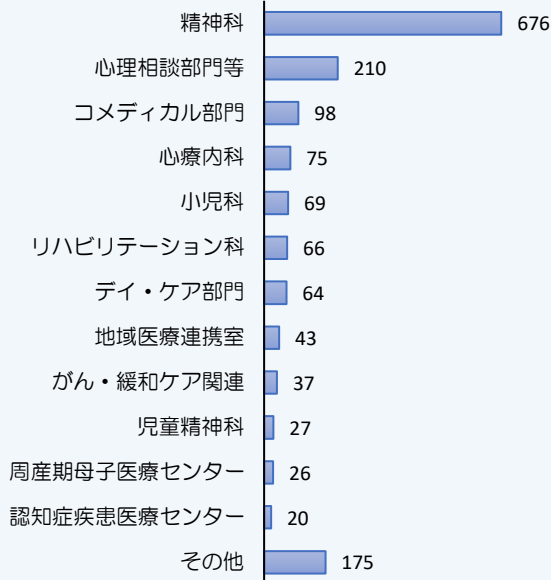
〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8

TEL 03-5805-5228 FAX 03-5805-5229 <https://www.jacpp.or.jp>

公認心理師が勤務している医療機関



- 一般病院の精神科に所属する公認心理師は、精神疾患だけでなく身体疾患の患者を対象とした活動も行っている実態が明らかになりました。
- 公認心理師の配置は精神科が最も多く、次いで、科から独立の心理相談部門等とコメディカル部門でした。
- 診療科を横断した活動が行われていることが示されました。



医療機関における公認心理師が行う心理支援の実態調査

Web調査

対象： 公認心理師が所属している全国医療機関の部門・部署等
 送付数： 5,963件 回答数：1,661件 分析対象数：1,586件
 調査期間： 2021年10月18日～11月29日
 ※ 公認心理師が配置されている部門・部署別の責任者等に、部署としての取り組みについてご回答いただきました。

インタビュー調査

対象： 24施設（公認心理師24人、及び、公認心理師が連携・協働して支援を実践している他の専門職者24人）
 調査期間： 2021年11月～2022年2月
 ※ 医療分野の公認心理師によって提供される心理支援の質を高めるために、何をどう充実させていくとよいか等について、半構造化面接でお話いただきました。

院内連携…

病棟の医師や看護師は曜日によって担当者が異なるが、常勤（専従）の公認心理師が患者の日々の様子を継続して把握し、また、職種間の情報や状況をつないでくれていることで、支援全体がつながっている。：看護師

院外連携…

医療と福祉を統合したコーディネータが必要。公認心理師の活動が統合的支援の端緒となる。：医師

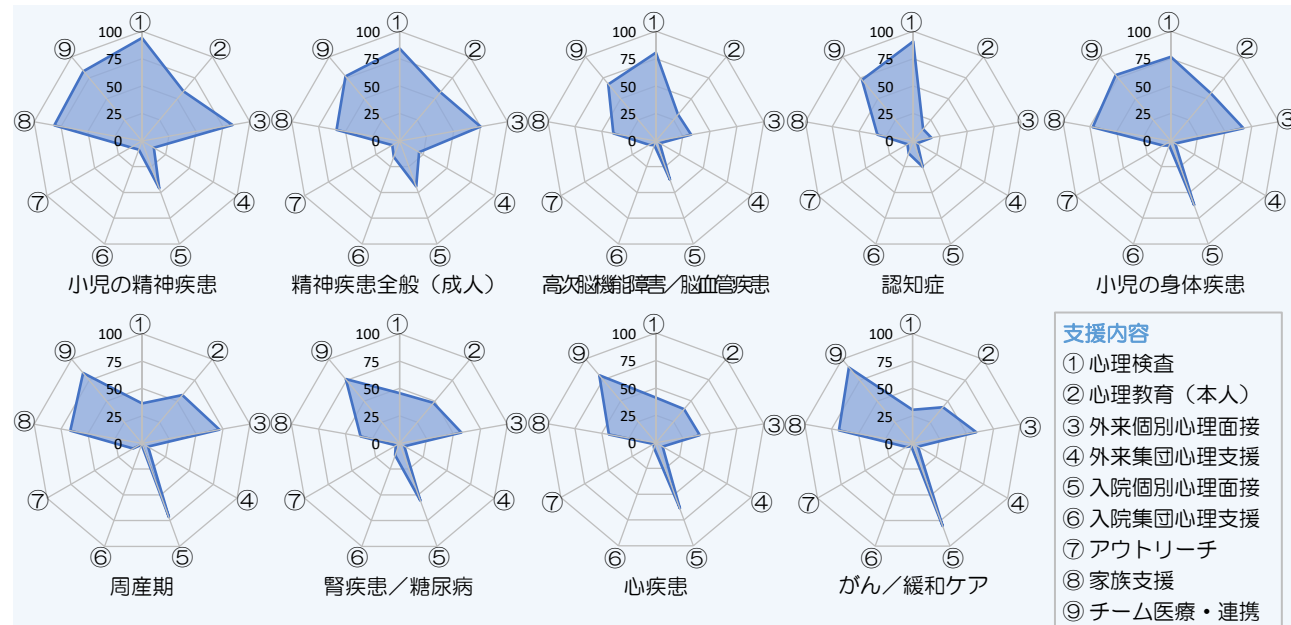
地域支援…

高齢で社会的なフレイルの状況にある人（独居・ひきこもり）への地域での支援等、地域包括ケアについて、心理師のさらなる関与を期待したい。：医師

できることの周知…

公認心理師にできることを、もっとわかりやすくアピールしてほしい。どんな時に頼むとどんな良いことがあるかが分かれると頼みやすくなる。：看護師

公認心理師が行っている支援



※ 軸の単位は%（各疾患等に対してその支援を行っている公認心理師の割合）

- **心理検査**は、要支援者のアセスメントの重要な手段として、他職種から評価、期待されていました。
- 心理検査後の**フィードバック面接**は、結果の説明だけでなく、自己理解・疾病理解の促進、治療動機付け、不安の軽減等を目的に、公認心理師によって常態的に行われていました。
- **心理教育**は、さまざまな疾患・問題等に対して行われていました。

心理検査…

心理検査の結果が、診断の裏付けとなる。：医師
 心理検査により、生活場面で問題がどのような顕れ方をするかを推測することが可能となる。：作業療法士

心理支援…

安定して提供される個別心理面接により、著しい不調や入院に至らずにすんでいるように感じる。：管理栄養士
 個別心理面接を併用することで、集団心理支援だけでは対応が不十分な方にも自己理解が促進され、また、個々の回復に寄り添う継続的なサポートが提供されている。：精神保健福祉士

意思決定支援…

公認心理師には、患者への直接的支援だけでなく、意思決定支援の場面などで患者や家族に対する理解を深めるために、その言動をどう理解すればよいか、関わり方、ケアの方法などについて、心理的な視点から他職種に助言して欲しい。：看護師

家族支援…

小児診療の特徴として、医療者と保護者の関係が密になってしまうことやバランスが悪くなってしまうことがある。医療者と患者家族との関係性などを第三者的な立場から評価・助言する役割を担ってほしい。：医師

チーム医療の一員として

医療施設における公認心理師の活動の制度的裏付けは未だ不十分ではありますが、現場では、医療チームの中で状況に応じた柔軟な支援が積極的に展開されており、今後もさらなる参入が求められています。

また、チーム全体をエンパワメントし調整する役割も期待されています。

社会に貢献できる専門職となるために

今回の調査結果から、5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）、5事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療）および在宅医療等の中で、精神疾患だけでなく、がんや周産期、小児、糖尿病等について、公認心理師が支援の一端を担っていることが明らかとなりました。

また、施設内での支援に留まらず、アウトリーチ活動の拡充も期待されています。

今後、こうした課題において、具体的な貢献のあり方の検討が必要があり、各団体や公認心理師一人ひとりが意識して、日常業務や調査研究、資質向上等に取り組み、公認心理師の位置づけをより明確にしていければと考えます。